

様式・資料集

様式 1	建物被災状況チェックシート	1
様式 2	避難所開設チェックリスト	3
様式 3	避難所施設利用計画（開放スペース）	4
様式 4	避難者名簿（避難所入所者用）	6
様式 5	避難者名簿（避難所以外の避難者用）	7
様式 6	避難者一覧表（避難所入所者用）	8
様式 7	避難者一覧表（避難所以外の避難者用）	9
様式 8	避難所開設報告	10
様式 9	避難所状況記録票	11
様式 10	問合せ受付票	12
様式 11	訪問者管理簿	13
様式 12	郵便物等受付票	14
様式 13	ペット登録簿	15
様式 14	食料・物資要望票	16
様式 15	食料（主食）依頼伝票	17
様式 16	物資依頼伝票	18
様式 17	食料・物資管理簿	19
様式 18	ボランティア受付票	20
参考 1	避難所開設・運営に関わる災害対策本部の事務分掌	21
参考 2	避難所内の掲示物（例）	22
参考 3	要配慮者の特性に応じた配慮	24
参考 4	避難所内トイレ利用ルール（案）	25
参考 5	避難所におけるペットの飼育ルール広報文（案）	26
参考 6	救命処置の手順（心肺蘇生と AED の使用手順）	27

様式 1 建物被災状況チェックシート

【チェックの手順】

- ① 質問 1 から順に点検を行い、外部状況の点検(質問 1～6)でB又はCと判断された場合は、建物内に入ることはせず、内部状況の点検(質問 7以降)については行う必要はありません。
- ② 危険と認められる場所については、貼り紙をするなどして立入禁止とします。
- ③ このチェックシートの質問項目に関わらず、少しでも建物の状況に不安がある場合は、災害対策本部(水防・砂防対策班建築対策班)へ連絡し、被災建築物応急危険度判定士による判定を待ちます。

避難所名：_____

点検実施者名：_____

点検実施日時：_____月_____日_____時頃

【外部状況の点検】

建物の外から見て、次の質問の該当するところに○を付けて下さい。

外部状況についての質問	該当項目
1 隣接する建物が傾き、避難所の建物に倒れ込む危険性がありますか？	A いいえ B 傾いている感じがする C 倒れ込みそうである
2 建物周辺に地すべり、がけくずれ、地割れ、噴砂・液状化などが生じましたか？	A いいえ B 生じた C ひどく生じた
3 建物が沈下しましたか？あるいは、建物周囲の地面が沈下しましたか？	A いいえ B 沈下した C ひどく沈下した
4 建物が傾斜しましたか？	A いいえ B 傾斜しているような感じがする C 明らかに傾斜した
5 外部の柱や壁にひび割れがありますか？	A ない又は髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
6 外壁タイル・モルタルなどが落下しましたか？	A いいえ B 落下しかけている、落下している (Cの回答はありません)

【内部状況の点検】

建物の中に入り、次の質問の該当するところに○を付けて下さい。

内部状況についての質問	該当項目
7 床が壊れましたか？	A いいえ B 少し傾いている、下がっている C 大きく傾斜している、下がっている
8 内部のコンクリートの柱、壁にひび割れがありますか？	A ない又は髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
9 建具やドアが壊れましたか？	A いいえ B 建具・ドアが動かない C 建具・ドアが壊れた
10 天井、照明器具が落下しましたか？	A いいえ B 落下しかけている C 落下した
11 ガスが漏れている匂いがしますか？	A いいえ C ガスの匂いがする (Bの回答はありません)

【判定基準】

点検の結果	判定	対 応
① Cが一つでもある場合	危険	建物内へは立ち入らず、災害対策本部へ連絡し、他の避難所への移動等、必要な対応を検討します。
② Bが一つでもある場合	要注意	建物内へは立ち入らず、災害対策本部へ連絡し、専門家による応急的な補強を行う等、必要な措置を講じます。
③ Aのみの場合	使用可能	危険箇所に注意し、施設を使用します。

※ 余震により被害が進んだと思われる場合は、再度チェックシートで被災状況を点検して下さい。

※ このチェックシートによる判断は、あくまで臨時的なものであるため、災害対策本部（建築対策班）へ連絡し、できるだけ早く被災建築物応急危険度判定士による判定を受けて下さい。

様式2 避難所開設チェックリスト

項 目	対 応 項 目	確認
1. 避難所への到着、避難者の安全確保	・建物内外にいる避難者をまとめ、落ち着かせる	☐
	・開設準備中(施設の安全確認中)は建物外での待機を呼びかける	☐
	・雨天時等は、改めて場所割することを前提に、施設内に誘導する。	☐
2. 建物の安全確認 ※安全確認が済むまで避難者を入れない。	・「建物被災状況チェックシート」で、建物の安全確認をする	☐
	・火災は発生していないか	☐
	・敷地内に危険な箇所はないか(擁壁の崩れ、塀が倒れる)	☐
	・自動車が乗り入れはないか	☐
3. 避難所の本部を設置	・運營業務場所の安全確認	☐
4. 設備・ライフラインの確認	・電気、放送設備が使用できるか	☐
	・電話、FAXが使用できるか	☐
	・水道が使用できるか	☐
	・ガスが使用できるか	☐
	・トイレが使用できるか	☐
	・無線機が使用できるか	☐
	・周辺の道路状況把握(避難者からの情報収集)	☐
5. 災害対策本部への連絡	・避難所設置及び状況を報告	☐
6. 避難者受入れスペース等の確保	・安全な部屋、スペースを確保し、避難者を誘導	☐
	・室内の整理等は、避難者に協力を依頼し処理する	☐
7. 避難者の登録	・避難者の世帯ごとの登録	☐
8. 避難者への説明 ※混乱時のため、冷静な態度でゆっくり説明する。 ※混乱の沈静化に努める	・「避難所共通ルール」の掲示、配付、説明	☐
	・トイレの使用場所、火気取扱について説明	☐
	・避難者名簿未登録者への登録依頼	☐
	・その他、把握できている災害情報の説明	☐
9. 非常用設備、資機材の確認	・施設にある資機材の確認	☐
	・非常用設備の確認	☐
10. 災害対策本部への要請事項の整理・報告 ※地区連絡所班を経由します	・水、食料、生活物資の要請	☐
	・応援職員の派遣要請	☐
	・その他	☐

※ 原則として、担当市職員がチェックしながら業務を実施します。

※ 担当市職員が不在で、かつ、緊急の場合には、施設管理者がその役割を補完します。

※ 担当市職員、施設管理者がともに不在で、かつ、緊急の場合には、避難者リーダーが実施します。

様式3 避難所施設利用計画(開放スペース)

用 途		具体的な場所	留意点
◎第一次避難スペース			(例) 体育館
第二次避難スペース			・避難スペースが不足する場合 (例) ○○校舎○階○教室
特別の配慮が必要な人(要配慮者)の部屋			(例) 多目的室
避難所運営用	◎受付所		・避難スペースの玄関近くに設置
	◎事務所		・受付に隣接して設置
	◎広報場所		・避難スペースの玄関近くに、受付とともに設置 ・災害対策本部等からの情報伝達用「広報掲示板」と避難所運営用「伝言板」を設置
	会議場所		・避難所運営組織等のミーティング場所(事務室等)
	仮眠所(スタッフ用)		・事務室や仮設テント等の確保
救護活動用	◎救護所		・救護テントの設置や施設の医務室(保健室)の利用
	育児室・乳児室		・就寝場所から離れた場所を確保
	物資等の保管場所		・原則として鍵のかけられる場所
	物資等の配布場所		・天候に左右されない場所
	仮設電話等の設置場所		・屋根のある屋外等、周辺の在宅被災者も利用でき、就寝場所に声が聞こえない場所に設置
避難生活用	◎更衣室(兼授乳場所)		・個室又は仕切りの確保
	相談所		・プライバシーが守られる場所(個室)
	休憩所		・共用の多目的スペースとして設置
	調理場(電気調理器具)		・電気ポット等の設置(電気復旧後)
	遊戯場所、勉強場所		・昼は遊び場、夜は勉強の場とし、就寝場所から離れた場所

◎：避難所開設当初から設ける必要がある場所

※必要に応じて、略図を添付

用 途		具体的な場所	留意点
屋 外	仮設トイレ		・就寝場所に臭いが届かない所、し尿収集車の進入しやすい所、就寝場所から壁伝いで行ける（高齢者等が行き易い）所 ・特に女性や子どもの安全・安心に配慮 ・照明電源が確保できる場所
	ゴミ集積場		・就寝場所に臭いが届かない所、ゴミ収集車が進入しやすい所 ・調理室など、衛生に関して十分に注意を払わなければならない場所から離れたところ ・直射日光が当たりにくく、屋根のあるところ
	喫煙場所		・屋外に設置（学校など敷地内禁煙の施設は禁煙）
	物資等の荷卸し場		・トラック等の大型車両が進入しやすい所（屋外に仮設テント等を設置）
	炊事・炊き出し場		・避難者が炊事、炊き出しができる仮設設備等を設置
	仮設入浴場・洗濯・物干場		・トラック等が進入しやすく、ボイラー等の使用や排水の確保ができる場所 ・女性用の洗濯物干場の確保
	駐輪場・駐車場		・自動車は、一時利用のみ
	ペット飼育場所		・原則として、屋外に設置

様式4 避難者名簿（避難所入所者用）

(避難所名：)

番号：

①	世帯代表者名 ふりがな			電話			
	住 所						
②	入 所 年 月 日	年	月	日	所属自治会名		
	家 族 ※ここに避難した人だけ書いて下さい。	ふりがな 氏 名	性別		年齢	要配慮※	備 考
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
			男 ・ 女				
	※配慮を要する方は○を記入の上、下記「要配慮内容」に記入して下さい。						
	要 配 慮 内 容	(病気や障害等特別の配慮が必要である、紙おむつ、メガネ、入歯等の必要、アレルギーがあるなど、配慮が必要な事項があればご記入下さい)					
	親 族 等 の 連 絡 先	住所 氏名 電話					
家屋被害状況	1 全壊 2 全焼 3 半壊 4 半焼 5 一部損壊 6 流出 7 床上浸水 8 床下浸水 ①断水 ②停電 ③ガス停止 ④電話不通						
特 技 ・ 資 格	(特技や資格を活かした活動にお手伝いいただける方はご記入下さい。) 特技・資格の内容 氏名						
③	安否確認など他からの問い合わせに対して、住所、氏名、性別を公開してもよいですか？			公開可 ・ 公開不可			
④	退 所 年 月 日	年	月	日			
	転 出 先	住所 氏名 電話					

※この名簿は、世帯代表の方が記入し、避難所運営委員会へお渡し下さい。

【避難者の方へ】

- ・入所にあたり、この名簿を記入し提出することにより避難者として登録され、避難所での生活支援が受けられるようになります。
- ・内容に変更がある場合は、速やかに避難所運営委員会総務班に申し出て修正して下さい。
- ・ご親族の方々等に安否をお知らせするために、住所、氏名、性別に限り公表し、または他からの問い合わせに対して回答することとしています。しかしプライバシーの問題がありますので、公表の可否については、ご家族で判断して下さい。

様式5 避難者名簿（避難所以外の避難者用）

(名称:)

番号：

①	世帯代表者名 ふりがな		電話						
	住 所								
②	入 所 年 月 日		年	月	日	所属自治会名			
	家 族	氏 名 ふりがな		避難状況※1	性別	年齢	要配慮※2	備考	
					男・女				
					男・女				
					男・女				
					男・女				
					男・女				
					男・女				
					男・女				
	※1：ア．テント、イ．車、ウ．在宅避難者、エ．その他 ※2：配慮を要する方は○を記入の上、下記「要配慮内容」に記入して下さい。								
要 配 慮 内 容		(病気や障害等特別の配慮が必要である、紙おむつ、メガネ、入歯等の必要、アレルギーがあるなど、配慮が必要な事項があればご記入下さい。)							
親 族 等 の 連 絡 先		住所 氏名 電話							
家屋被害状況		1 全壊 2 全焼 3 半壊 4 半焼 5 一部損壊 6 流出 7 床上浸水 8 床下浸水 ①断水 ②停電 ③ガス停止 ④電話不通							
特 技 ・ 資 格		(特技や資格を活かした活動にお手伝いいただける方はご記入下さい。) 特技・資格の内容 氏名							
③	安否確認など他からの問い合わせに対して、住所、氏名、性別を公開してもよいですか？				公開可 ・ 公開不可				
④	移 転 年 月 日		年	月	日				
	移 転 先		住所 氏名 電話						

※この名簿は、世帯代表の方が記入し、最寄りの避難所の担当市職員へお渡し下さい。

【避難所以外に避難している方へ】

- ・この名簿を記入し提出することにより避難者として登録され、避難所生活と同等の食料・物資などの支援が受けられるようになります。
- ・内容に変更がある場合は、速やかに避難所の担当市職員に申し出て修正して下さい。
- ・ご親族の方々等に安否をお知らせするために、住所、氏名、性別に限り公表し、または他からの問い合わせに対して回答することとしています。しかしプライバシーの問題がありますので、公表の可否については、ご家族で判断して下さい。

【名称： 】（避難所名： ）

最初の受付時は、太枠内のみ記入して下さい。太枠以外の項目は、「避難者名簿（避難所入所者用）」が提出されてから、管理班が転記して下さい。

※1 世帯区分には、世帯代表者に○印を記入し、世帯ごとに「実線」で区切ります。

※2 要配慮者である場合は「要」と記入し、注意すべき事項も記入します。病気や障害等特別の配慮が必要である人、紙おむつ、メガネ、入歯等の必要な人、アレルギーのある人など、その概要を記入（詳細は、「避難者名簿（避難所入所者用）」に記入してもらう）。外国人の場合は、国籍・パスポートNo.・言語・日本語（○、△、×）等を記入します。

※3 安否確認など他からの問い合わせに対して、名簿の公開を同意する場合は「○」、同意しない場合は「×」と記入します。

【名称： 】

担当市職員は、避難所以外で避難している人が記入した「避難者名簿（避難所入所者以外の避難者用）」を取りまとめ、この表を作成して下さい。

※1 世帯区分には、世帯代表者に○印を記入し、世帯ごとに「実線」で区切ります。

※2 避難状態は「避難者名簿（避難所入所者以外用）」と同様に次の区分とし、記号で記入します。
ア. テント / イ. 車 / ウ. 在宅避難者 / エ. その他

※3 要配慮者である場合は「要」と記入し、注意すべき事項も記入します。病気や障害等特別の配慮が必要である人、紙おむつ、メガネ、入歯等の必要な人、アレルギーのある人など、その概要を記入（詳細は、「避難者名簿（避難所入所者以外の避難者用）」に記入してもらう）。外国人の場合は、国籍・パスポートNo.・言語・日本語（○、△、×）等を記入します。

※4 名簿の公開を同意する場合は「○」、同意しない場合は「×」と記入します。

様式9 避難所状況記録票

(避難所名：)

発信者名			災害対策本部 受信者名	
発信日時	年	月	日	
	前日数(A)	入所数(B)	退所数(C)	現在数(A+B-C)
避難者世帯数 (入退所届数)	世帯	世帯	世帯	世帯
避難者人数 (名簿登録数)	人	人	人	人
連絡事項				
	活動状況		要請事項	
総 務 班				
情 報 班				
管 理 班				
保 健 衛 生 班				
医 療 福 祉 班				
食 料 物 資 班				
ボランティア班				
(その他、特筆すべき事項)				
周辺地域の状況				
※地域の自治会や在宅被災者からの要望など、特に連絡の必要がある場合に記載して下さい。				

様式10 問合せ受付票

(避難所名：)

受付番号		受付日時	月	日	:	頃
受付者氏名						
問合せのあった避難者	住所 氏名					
問合せしてきた人	氏名 連絡先					
掲示板への貼付の了解	可 ・ 不可		掲示板への貼付日		月 日	
備 考						

様式11 訪問者管理簿

(避難所名：)

受付日	年	月	日		
番号	氏 名	訪問時刻	退所時刻	用 件	
1		:	:		
2		:	:		
3		:	:		
4		:	:		
5		:	:		
6		:	:		
7		:	:		
8		:	:		
9		:	:		
10		:	:		
11		:	:		
12		:	:		
13		:	:		
14		:	:		
15		:	:		
16		:	:		
17		:	:		
18		:	:		
19		:	:		
20		:	:		
21		:	:		
22		:	:		
23		:	:		
24		:	:		
25		:	:		
備考					

様式12 郵便物等受付票

(避難所名：)

番号	受付日時	宛 名	自治会名 グループ名	郵便物等の種類	受取日時	受取人
1	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
2	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
3	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
4	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
5	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
6	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
7	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
8	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
9	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
10	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
11	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
12	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
13	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	
14	月 日 時			葉書・封書・小包 その他 ()	月 日 時	

様式13 ペット登録簿

(避難所名：)

番号	受付日	飼育者	種類	体格や毛色 等の特徴	ペット名	退所日
1	月 日	住所 氏名				月 日
2	月 日	住所 氏名				月 日
3	月 日	住所 氏名				月 日
4	月 日	住所 氏名				月 日
5	月 日	住所 氏名				月 日
6	月 日	住所 氏名				月 日
7	月 日	住所 氏名				月 日
8	月 日	住所 氏名				月 日
9	月 日	住所 氏名				月 日
10	月 日	住所 氏名				月 日
11	月 日	住所 氏名				月 日
12	月 日	住所 氏名				月 日
13	月 日	住所 氏名				月 日
14	月 日	住所 氏名				月 日

様式14 食料・物資要望票

(グループリーダー → 食料物資班)

[illegible]

様式15 食料(主食)依頼伝票

① 避難所記入欄	依頼日時	月 日 時 分		
	避難所名			
	避難所住所			
	担当者 (役職名)			
		電話	F A X	
	依頼数	避難者用	食 (うち、やわらかい食事 食)	
		在宅被災者用	食 (うち、やわらかい食事 食)	
合 計		食 (うち、やわらかい食事 食)		
その他の 依頼内容				

※食料（主食）が配送されましたら、速やかに災害対策本部に報告して下さい。

② 災害対策本部記入欄	受信日時	月 日 時 分		
	担当者名			
	処理時刻	月 日 時 分		
	依頼数	避難者用	食 (うち、やわらかい食事 食)	
		在宅被災者用	食 (うち、やわらかい食事 食)	
		合 計	食 (うち、やわらかい食事 食)	
	発注業者	電話	F A X	
	配送業者	電話	F A X	
配送確認時刻	月 日 時 分			
備 考				

様式16 物資依頼伝票

① 避難所記入欄				② 災害対策本部記入欄		
依頼日時	月 日 時 分			受信日時	月 日 時 分	
避難所名				受信者名		
避難所住所				処理者名		
担当者 役職名	電話 FAX			発注業者	電話 FAX	
				発注日時	月 日 時 分	
				伝票No.		
	品名	サイズ等	数量	出荷個数	個口	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
				個口合計		

※食料物資班は、受領時に「食料・物資管理簿」に記入して下さい。

③ 配達担当者記入欄		④ 避難所 受領サイン
出荷日時	月 日 時 分	
配達者名	電話 FAX	
配達日時	月 日 時 分	

様式17 食料・物資管理簿

(避難所名：)

[illegible]

様式18 ボランティア受付票

(避難所名：)

※太枠内をご記入下さい。

受付日時	年 月 日	受付担当者			
ふりがな 氏 名		性別		年齢	歳
住 所	〒		電話		
緊急時連絡先	氏名： 電話（携帯）：				
この避難所での活動回数	初回 ・ 回目				
ボランティア 経験の有無	有 ・ 無				
	(主な内容)				
資格・特殊 技能等					
活動可能な 期間・時間	月 日 時 ～ 月 日 時 (予定)				
ボランティア 保険加入	加入済み ・ 未加入				

【避難所記入欄】

活動班及び 担当者	() 班 担当者 ()
活動内容	
備 考	

活動終了日 (退所日)	年 月 日
----------------	-------

参考1 避難所開設・運営に関わる災害対策本部の事務分掌

		掌握事務
総合・総務 対策部	本部 事務局班	・避難所開設・閉鎖の各対策部への指示
広報・調整 対策部	広報班	・避難所開設・運営等に係る市民、報道機関への広報
	安否班	・避難者名簿の取りまとめに関する事
	ボランティア班	・ボランティアの受入・調整、広報に関する事
市民・環境 対策部	環境推進班	・避難所におけるごみ及びし尿収集運搬、処理に関する事
	安置埋葬班	・避難所を一時遺体安置所とする場合の遺体の収容、安置全般に関する事
水防・砂防 対策部	建築対策班	・避難所施設における応急危険度判定に関する事
医療・救護 対策部	医療班	・避難所等の保健衛生に関する事 ・医薬品及び衛生資材の調達・配分に関する事 ・避難民等の健康維持に関する事 ・避難所における被災者の支援に関する事
避難・救援 対策部	総括班	・避難誘導、安否確認に関する事
	避難所班	・避難誘導及び避難所の開設に関する事 ・避難者の収容及び避難所の運営、管理に関する事 ・避難所における被災者の支援等に関する事 ・避難所の運営支援(要配慮者支援体制)に関する事
	保育家庭班	・福祉避難所の設置に関する事 ・乳幼児、児童の安全確保および避難に関する事 ・乳幼児及び妊産婦の救護に関する事
	物資班	・被災者及び救援物資の輸送に関する事 ・応急食糧及びその他生活必需品の調達及び管理に関する事
	炊事班	・炊き出しに関する事
配水・給水 対策部	総括班	・学校施設及び所管施設の災害対策及び避難調査に関する事
	総務・給水班	・避難所等における給水に関する事
消防・救助 対策班	総括班	・避難所等における燃料(LPガス等)の保安管理に関する事

うけ つけ
受 付

ト イ レ

だんせいよう
男性用
しょうか
使用可

・
・

じょせいよう
女性用
しょうふか
使用不可

ゴミ

ぶんべつくぶん
分別区分

かいしゅうじかん
回収時間

にゆうしつきんし
入室禁止

じょせいせんよう
女性専用

きつえんじょ
喫煙所

参考3 要配慮者の特性に応じた配慮

	配慮内容
高齢者	○ 高齢者は、不便な避難所生活で急速に活動力が低下し、寝たきり状態になりやすいので、健康状態に十分配慮するとともに、可能な限り運動できるスペースを確保する。 ○ 認知症高齢者は、急激な生活環境の変化で精神症状や問題行動が出現しやすく、認知症も進行しやすいので、生活指導、機能訓練等を行い、精神的な安定を図る。 ○ トイレに近い場所に避難スペースを設ける。 ○ おむつをしている方のためには、おむつ交換の場所を別に設ける。
視覚障がい者	○ 仮設トイレを屋外に設置する場合は、壁伝いに行くことができる場所に設置する等、移動が容易にできるよう配慮する。 ○ 音声で複数回繰り返すなど情報伝達方法に配慮する。 ○ 盲ろう通訳・介助員を派遣する。
聴覚障がい者 音声言語機能障がい者	○ 伝達事項は、紙やコミュニケーションボードに書いて知らせる。 ○ 盲ろう通訳・介助員、手話通訳者、要約筆記者等を派遣する。 ○ 簡易型電光掲示板や呼び出しランプ等による情報伝達を行う。
肢体不自由者	○ 車いすが通れる通路を確保する。 ○ トイレのスペース確保に配慮する。
内部障がい者 (難病患者等)	○ 医療機関等の協力により巡回診療を行うほか、定期的な治療の継続のための移送サービスを実施する。特に、人工呼吸器の電源確保や人工透析患者の定期的な透析に留意する。 ○ 医療機材の消毒や交換等のため、清潔な治療スペースを設ける。 ○ 人工肛門造設者用のオストメイトトイレの所在を把握し、対象者に周知する。
知的障がい者	○ 環境の変化を理解できずに気持ちが混乱したり、精神的に不安定になる場合があるので、気持ちを落ち着かせるよう配慮する。 ○ コミュニケーションボードを使うなど絵、図、文字などを組み合わせて情報を伝える。
精神障がい者	○ 孤立してしまうことがないよう、知人や仲間と一緒に生活できるよう配慮する。 ○ 精神科医師等との連絡や、向精神薬等の入手に配慮する。
発達障がい者	○ 変化に対する不安や抵抗、こだわりが強く避難所生活になじめないこともあるので、プライバシーを保てるスペースを確保するよう配慮する。
性同一性障がい者	○ 男女兼用トイレや多目的トイレの確保に配慮する。 ○ 更衣室の使用等について配慮する。
乳幼児	○ 乳幼児のためのベビーベッドを用意する。 ○ 退行現象、夜泣き、吃音、不眠、チックなどの症状に留意し、精神的安定が図られるよう配慮する。 ○ 乳児に対して、ミルク用の湯、哺乳瓶の清潔、沐浴の手だての確保等に留意する。
妊産婦	○ 安静に休息ができるスペースや搾乳、授乳できるスペースを設ける
日本語に不慣れな外国人	○ 必要に応じて、通訳ボランティア等を派遣する。 ○ 掲示物の工夫(多言語表示シート、ひらがなの書き添え)や、翻訳機、パソコンの翻訳ソフト等の活用など、情報伝達に配慮する。

参考4 避難所内トイレ利用ルール(案)

避難所内トイレ利用ルール(案)

避難所内のトイレでは、皆さんがいつでも気持ちよく利用できるように、次のようなルールを守って、清潔な使用を心がけましょう。

また、水道が復旧するまでは水は大変貴重になります。排泄後の流し用や手洗い用の水は、無駄遣いをせず、節水に心がけましょう。

1 施設内の通常のトイレを使用する場合（水を確保して使用している場合）

- トイレトペーパーを使用した場合は、詰まる可能性がありますので、便器に流さず、備え付けのゴミ箱に捨ててください。
捨てた後は、必ずゴミ箱のふたを閉めて下さい。
- トイレ使用後は、ポリバケツに汲み置きしてある水（流し用）を使用し、流して下さい。
- ポリバケツに汲み置きしている水は、手洗いには使用しないで下さい。
手洗いは、手洗い場に備え付けてある水（手洗い用）を使用して下さい。
- 水汲みやトイレ掃除は、避難者全員で当番制で行います。居住グループごとに当番を割り振りますので、当番表を確認して、協力して行いましょう。
水がなくなりそうな場合は、当番にかかわらず、気づいた人達で協力して水汲みを行いましょう。

2 仮設トイレ（簡易組立てトイレ）を使用する場合

- 使用する際は、中に人がいないか一声かけて確認しましょう。
- トイレを使用する際は、使用していることが分かるよう、入り口にある札を「使用中」にしてから入りましょう。
- 介添えが必要な方は、洋式のトイレを使用して下さい。
- 洋式のトイレは、足の不自由な方や介添えが必要な方が優先的に使用するものですので、それ以外の方は和式のトイレの使用を優先して下さい。
- 使用後は、便器のそばにあるレバーをまわして、排泄物を流して下さい。
- 汲み取り業者の手配が必要なトイレですので、排泄物が溜まってきたら、気づいた人が衛生班に報告して下さい。

避難所運営委員会

ペットの飼い主の皆さんへ

避難所では、多くの人が共同生活を送っていますので、ペットの飼い主の皆さんは、次のことを守って避難所生活を送ってください。

- ① ペットは、指定された場所で「つなぐ」、あるいは「檻（ケージ）」に入れて飼ってください。
- ② 飼育場所や施設は、飼い主の手によって常に清潔にし、必要に応じて消毒を行ってください。
- ③ ペットに関する苦情の予防、危害の防止に努めて下さい。
- ④ 排便やブラッシングは、必ず屋外の指定された場所でさせ、後始末を行ってください。
- ⑤ 給餌は時間を決めて、その都度きれいに片づけて下さい。
- ⑥ ノミの駆除に努めて下さい。
- ⑦ 運動は、必ず屋外で行ってください。
- ⑧ 必要なワクチンを接種して下さい。
- ⑨ 迷子札等の装着をして下さい。
- ⑩ 飼育が困難な場合は、専用の施設の一時預かりや動物救護センター等に相談して下さい。
- ⑪ 他の避難者との間でトラブルが生じた場合は、速やかに避難所運営委員会（保健衛生班）まで届け出て下さい。

避難所運営委員会

参考6 救命処置の手順（心肺蘇生とAEDの使用手順）

出典：「改訂4版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに」抜粋（財団法人 救急振興財団）

§2 救命処置

Ⅱ

救命処置の手順（心肺蘇生とAEDの使用手順）

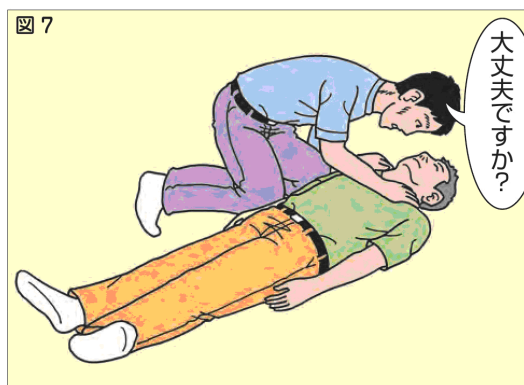
1 心肺蘇生の手順

① 反応（意識）を確認する

- 傷病者の耳もとで「大丈夫ですか」または「もしもし」と大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応があるかないかをみます。

ポイント

- 呼びかけなどに対して目を開けるか、なんらかの返答または目的のあるしぐさがなければ「反応なし」と判断します。
- けいれんのような全身がひきつるような動きは「反応なし」と判断します。
- 反応があれば、傷病者の訴えを聞き、必要な応急手当を行います。



反応の確認

② 助けを呼ぶ

- 反応がなければ、大きな声で「誰か来て！人が倒れています！」と助けを求めます。
- 協力者が来たら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。

ポイント

- 救助者が一人の場合や、協力者が誰もいない場合には、次の手順に移る前に、まず自分で119番通報をしてください。また、すぐ近くにAEDがあることがわかっている場合にはAEDをとりに行ってください。
- 119番通報すると、通信指令員が次の手順を指導してくれます。



119番通報とAEDの手配

3 呼吸の確認

傷病者が「普段どおりの呼吸」をしているかどうかを確認します。

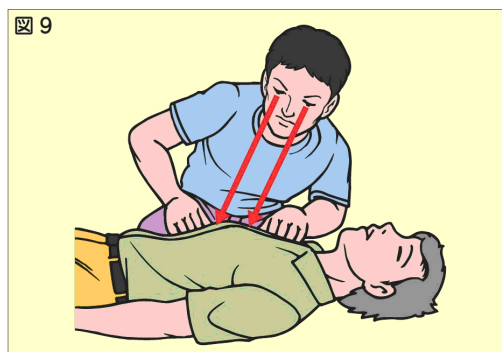
- 傷病者のそばに座り、10 秒以内に傷病者の胸や腹部の上がり下がりを見て、普段どおりの呼吸をしているか判断します。

ポイント

次のいずれかの場合には、「普段どおりの呼吸なし」と判断します。

- 胸や腹部の動きがない場合
- 約 10 秒間確認しても呼吸の状態がよくわからない場合
- しゃくりあげるような、途切れ途切れに起きる呼吸がみられる場合

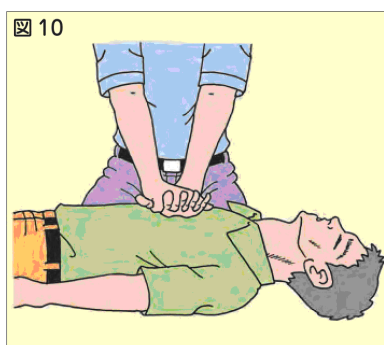
（心停止が起こった直後には、呼吸に伴う胸や腹部の動きが普段どおりでない場合や、しゃくりあげるような途切れ途切れに起きる呼吸がみられることがあります。この呼吸を「死戦期呼吸^{しせんき}」といいます。「死戦期呼吸」は「普段どおりの呼吸」ではありません。）



呼吸の確認

4 胸骨圧迫^{きょうこつ}

傷病者に普段どおりの呼吸がないと判断したら、ただちに胸骨圧迫を開始し、全身に血液を送ります。

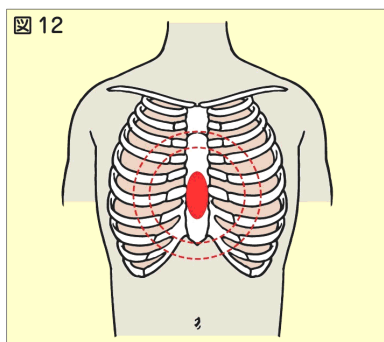


胸骨圧迫

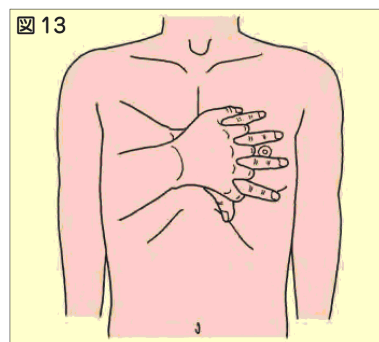


胸骨圧迫の姿勢

- 胸の真ん中（図 12）を、重ねた両手で「強く、速く、絶え間なく」圧迫します。
 - 胸の真ん中（図 12）に、片方の手の付け根を置きます。
 - 他方の手をその手の上に重ねます。両手の指を互いに組むと、より力が集中します（図 13）。



胸骨圧迫部位

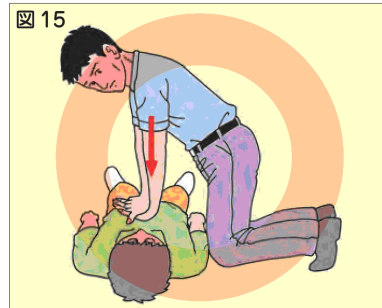


両手の置き方

- 肘^{ひじ}をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、傷病者の胸が少なくとも 5 cm 沈むほど強く圧迫します（図 14～17）。
- 1 分間に少なくとも 100 回の速いテンポで 30 回連続して絶え間なく圧迫します。
- 圧迫と圧迫の間（圧迫を緩めるとき）は、胸がしっかり戻るまで十分に力を抜きます。



両手の組み方と力を加える部位



垂直に圧迫する

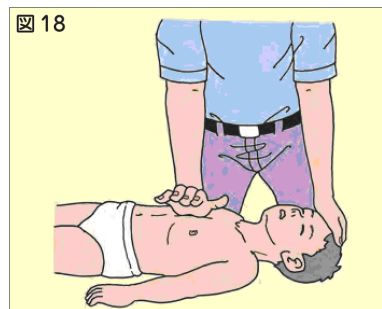


斜めに圧迫しない



肘^{ひじ}を曲げて圧迫しない

- 小児に対しては、両手または片手で、胸の厚さの約 $1/3$ が沈むほど強く圧迫します。



小児への胸骨圧迫

5 人工呼吸（口対口人工呼吸）

30回の胸骨圧迫終了後、口対口人工呼吸により息を吹き込みます。

(1) 気道確保（図19 頭部後屈あご先挙上法）

- 傷病者の喉の奥を広げて空気を肺に通しやすくします（気道の確保）。
- 片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先（骨のある硬い部分）に当てて、頭を後ろにのけぞらせ（頭部後屈）、あご先を上げます（あご先挙上）。

ポイント

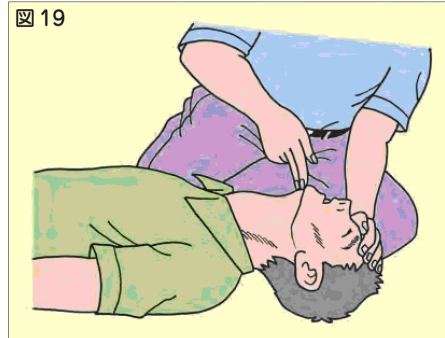
- 指で下あごの柔らかい部分を強く圧迫しないようにします。

(2) 人工呼吸

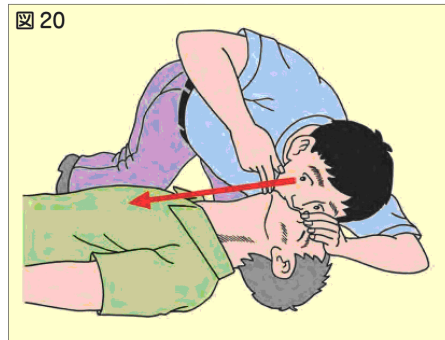
- 気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまみます。
- 口を大きく開けて傷病者の口を覆い、空気が漏れないようにして、息を約1秒かけて吹き込みます。傷病者の胸が持ち上がるのを確認します（図20）。
- いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込みます。

ポイント

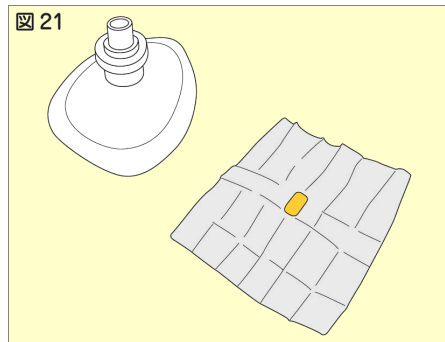
- 2回の吹き込みで、いずれも胸が上がるのが理想ですが、もし、胸が上がらない場合でも、吹き込みは2回までとし、すぐに胸骨圧迫に進みます。
- 人工呼吸をしている間は胸骨圧迫が中断しますが、その中断時間はできるだけ短くなるようにしてください。
- 感染防護具（図21～23 一方向弁付きの感染防止用シートあるいは人工呼吸用マスク）を持っていると役立ちます。
- 傷病者の顔面や口から出血している場合や、口と口を直接接触させて口対口人工呼吸を行うことがためられる場合には、人工呼吸を省略し、胸骨圧迫のみを続けます。



頭部後屈あご先挙上法



胸が持ち上がるのを確認する



感染防護具



一方向弁付感染防止用シート



一方向弁付人工呼吸用マスク

6 心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）の継続

- 胸骨圧迫を 30 回連続して行った後に、人工呼吸を 2 回行います。
- この胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ（30：2 のサイクル）を、救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。

ポイント

- 胸骨圧迫を続けるのは疲れるので、もし救助者が二人以上いる場合は、1～2 分間程度を目安に、胸骨圧迫の役割を交代するのがよいでしょう。
- 心肺蘇生を中止するのは次の場合です。
 - ① 救急隊に心肺蘇生を引き継いだとき（救急隊が到着してもあわてて中止せずに、救急隊の指示に従います。）
 - ② 心肺蘇生を続けているうちに傷病者が目を開けたり、普段どおりの呼吸をし始めた場合



胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

胸骨圧迫30回

- 胸の真ん中（胸骨の下半分）を圧迫
- 強く（少なくとも胸が 5 cm 沈み込むまで）
- 速く（少なくとも 1 分間に 100 回のテンポ）
- 絶え間なく（30 回連続）
- 圧迫と圧迫の間は力を抜く（胸から手を離さずに）

人工呼吸2回

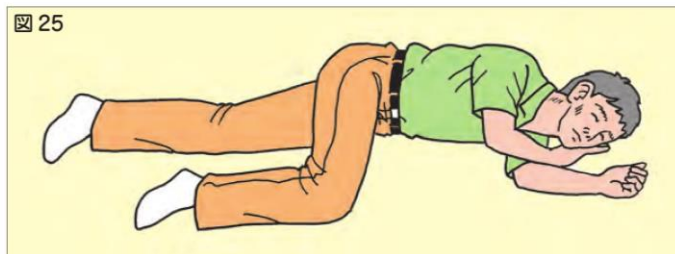
- 口対口で鼻をつまみながら息を吹き込む
- 胸が上がる程度
- 1 回約 1 秒間かけて
- 2 回続けて試みる
- 10 秒以上かけない

ポイント

反応はないが普段どおりの呼吸をしている場合は……

回復体位

- 反応はないが普段どおりの呼吸をしている場合は、気道の確保を続けて救急隊の到着を待ちます。気道確保は人工呼吸を行う場合と同様に、頭部後屈あご先挙上法で行います。
- 吐物などによる窒息の危険があるか、やむを得ず傷病者のそばを離れるときには、傷病者を横向きに寝かせます。このような姿勢を回復体位といいます。



回復体位

2 | AED の使用手順

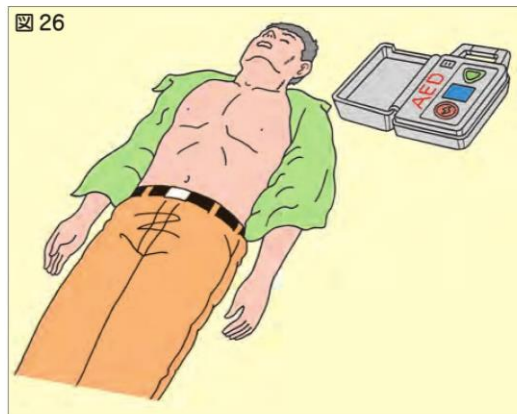
- 心肺蘇生を行っている途中で、AED が届いたらすぐに AED を使う準備を始めます。
- AED にはいくつかの種類がありますが、どの機種も同じ手順で使えるように設計されています。AED は電源が入ると音声メッセージと点滅するランプで、あなたが実施すべきことを指示してくれますので、落ち着いてそれに従ってください。
- 可能であれば、AED の準備中も心肺蘇生を続けてください。

7 AEDの到着と準備

① AED を傷病者の近くに置く

- AED を傷病者の近くに置きます。ケースから本体を取り出します。

図 26



AEDを置く場所

② AED の電源を入れる

- AED のふたを開け、電源ボタンを押します。ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。
- 電源を入れたら、以降は音声メッセージと点滅するランプに従って操作します。

図 27



AEDの電源を入れる

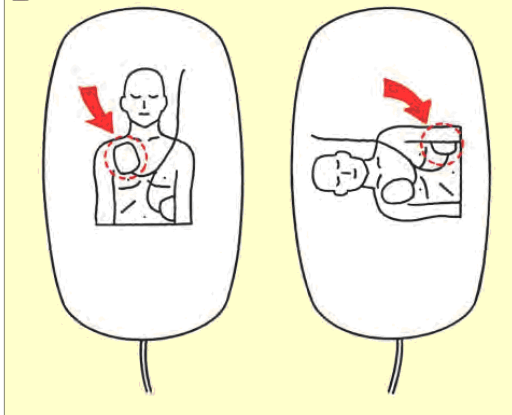
③ 電極パッドを貼る

- 傷病者の衣服を取り除き、胸をはだけけます。
- 電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールからはがし、粘着面を傷病者の胸の肌にしっかりと貼り付けます。
- 機種によっては電極パッドのケーブルを AED 本体の差込口（点滅している）に入れるものがあります。

ポイント

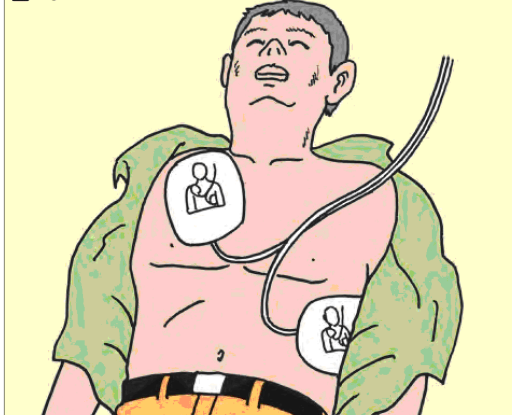
- 電極パッドは、胸の右上（鎖骨の下）および胸の左下側（脇の 5～8 cm 下）の位置に貼り付けます（貼り付ける位置は電極パッドに絵で表示されていますので、それに従ってください）。
- 電極パッドを貼り付ける際にも、可能であれば胸骨圧迫を継続してください。
- 電極パッドは、肌との間にすき間を作らないよう、しっかりと貼り付けます。アクセサリなどの上から貼らないように注意します。
- 成人用と小児用の 2 種類の電極パッドが入っている場合や、成人用モードと小児用モードの切り替えがある機種があります。その場合、小学生以上には成人用の電極パッド（成人用モード）を使用し、未就学児には小児用の電極パッド（小児用モード）を使用してください。成人には、小児用電極パッド（小児用モード）は使用しないでください。

図 28



電極パッド

図 29

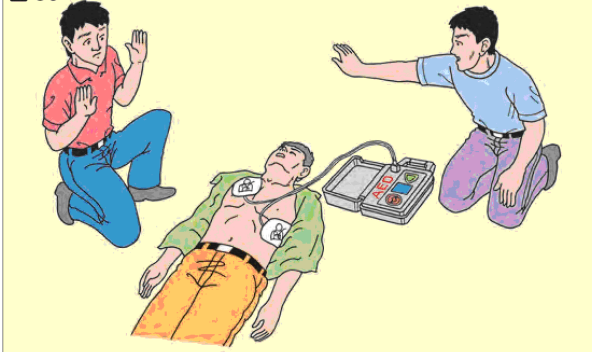


電極パッドを貼り付ける位置

8 心電図の解析

- 電極パッドを貼り付けると“体に触れないでください”などと音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。このとき、「みなさん、離れて!!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- 一部の機種には、心電図の解析を始めるために、音声メッセージに従って解析ボタンを押すことが必要なものがあります。
- “ショックは不要です”などの音声メッセージが流れた場合は、ただちに胸骨圧迫を再開します。

図 30



解析中は音声メッセージに従い離れる

